

平成25年度（2013年度）修士論文

地方商店街における道路整備
の一考察

A Study on road improvement of shopping street
in rural area

2013年9月

高知工科大学大学院 工学研究科 基盤工学専攻

学籍番号 1157005

長山 学史

Hisashi Nagayama

研究の要旨部分

地方都市における道路整備は、都市計画によって整備される路線が指定されているが、指定されてから長い時間が経過しても整備が完了していない路線が多く存在する。このため、高知県では平成 19 年 9 月に「都市計画道路見直しガイドライン」が策定され、各市町村で必要な路線の見直しが進められている。

しかしながら、都市計画道路として整備が進められている路線は、基本的に道路構造令に示されている標準的な幅員で全国一律的に整備されるため、道路整備が地域の持つ課題に有効な施策であるかが明確でない。

そこで本研究は、地方部の中心市街地の道路事業から整備区間と未整備区間のある安芸市都市計画道路本町線において、地元の利便性を評価する指標として道路整備による店舗数の推移を提案し、その要因を基に最適と考えられる道路拡幅計画について検討を行った。

結果、道路整備を実施している区間において沿道の事業所数の減少が抑えられていること、その要因として自動車が駐車スペースへのアクセス性、及び拡幅に伴う路上等への駐車性が寄与していることを確認した。しかしながら路上駐車は道路交通法違反となることから、管理者として望ましいものではない。

そこでこれまでの結果を踏まえ、道路管理者、利用者の双方に有意となるよう現在の都市計画道路の計画幅員を遵守しつつ、道路構造令を弾力運用した幅員構成で車両停車可能な道路拡幅計画を提案することができた。